

造影剤を使用する検査に関する説明書

《造影剤について》

造影剤は、体内の病変を造影剤を用いない場合より鮮明に抽出する必要があると判断される場合や、診断をより正確に行う必要があると判断される場合に使用します。通常、静脈内に注射して投与します。腎機能が正常な方であれば速やかに腎臓から尿として排出されます。

《造影剤の副作用について》

軽微な副作用も含めて、CT/血管撮影、尿路用造影剤では5%以下、MRI用造影剤では2%以下の患者さんに何らかの副作用が生じるといわれています。軽い副作用としては、くしゃみ、かゆみ、発疹、嘔吐、動悸などがあり、治療が不要かせいぜい1~2回の投薬、注射で改善するものです。重い副作用では血圧低下、呼吸困難、意識障害などがあり、発生の頻度はCT、血管撮影、尿路撮影用造影剤で0.04%程度、MRI用造影剤で0.01%程度とされています。

また非常に頻度は低いですが、10万人から20万人の1人程度の割合で死亡例も報告されています。

またごくまれに数時間から数日後（多くは2日以内）に副作用が現れることがあります。（発疹、かゆみ、むくみ、吐き気、のどのイガイガ、咳、冷や汗、動悸、脱力感、めまい等）

《血管外漏出について》

検査内容によっては、勢いよく造影剤を注入するため、血管外に造影剤が漏れることがあります。この場合には注射した部位が腫れて痛みを伴うこともあります。通常は時間がたてば吸収されますので心配ありませんが、漏れた量が非常に多い場合には、治療処置が必要となる場合があります。また、注射の痛みが数日間持続する場合もあります。

検査前のご注意

《食事制限について》

午前の検査の方は朝食を、午後の検査の方は昼食を摂らないようにして下さい。水分摂取の制限はありませんが、過剰摂取は画像に影響を与える可能性があるため極力控えて下さい。

《一部の糖尿病薬の制限について：CT用造影剤を使用する場合のみ》

ヨード系造影剤を使用する検査の場合、以下の糖尿病薬を服用中の方は、検査日前後2日間の休薬となります。他のお薬の場合はいつも通り内服して構いません。なお、他院で糖尿病薬を処方されている患者さんは、ご自身で担当医師へのご連絡をお願いします。

※検査日前後2日間の休薬となるお薬（ビクアナイド系糖尿病薬）・・・メルビン、メトグルコ、メトホルミン、グリコラン、ネルビス、メデット、メトリオン、ジベトン、ジベトス、ブホルミン 等

《授乳について》

授乳中で検査を受けられる場合、検査前に2日分の搾乳を行って下さい。検査後2日以内に搾乳した母乳は、造影剤が移行する恐れがありますので、捨てて下さい。

検査後のご注意

1. 造影剤を早く体外へ出すために、積極的に水分を摂って下さい。（コップ2杯程度）
2. 検査終了後1時間~1週間までの間に発疹や痒みなどの皮膚症状が遅れてあらわれる場合があります。そのような症状が出た場合は当院までご連絡下さい。